

視察報告書

- 1 視察日時 ①令和8年5月29日（金）午前11時00分～午後0時00分
 ②令和8年5月29日（金）午後1時30分～午後2時30分
- 2 視察先 ①株式会社南都興産 最終処分場
 最終処分場について
 ②奈良県葛城市 葛城市歴史博物館
 文化財の保存と活用について
- 3 視察目的 所管事務の調査にあたり、他市の取組を確認する
- 4 視察参加者 ・光成 良充 ・佐々木雄司 ・原田 素代
 ・治徳 義明 ・永徳 省二 ・杉野 千秋
 ・佐藤 武文
- 5 視察概要
 ① 最終処分場について、株式会社南都興産担当幹部より説明を受けた。
 ② 葛城市歴史博物館について、経緯や現状、文化財の保存や活用について、葛城市担当幹部より説明を受けた。
- 6 所 感
 ① 南都興産とは旧町時代から最終処分を請け負ってもらっていて、赤磐市になってからも引き続き処分を請け負ってもらっている。今まで所管の委員が視察には行っていないくて、どういった場所で、どういった処理をしているのか話に聞くだけであった。赤磐市で最終処分を行う計画が20年以上前からあったが、その計画も現在立ち消えとなっている。今回視察を行って赤磐市で自前の最終処分場を構えるのには、場所、施設の設置、事業資金の面を考えると赤磐市に施設を整備するのは、今後のことを考えると必要な施設なのか考えなくてはならない課題と感じている。
 しかし、自分の市で出た最終処分物を、他市の施設に任せるというのも考えないといけない部分であり、年間約5,000万円で処理してもらっているものを赤磐市が、それだけの金額で処理できるのか総合的に判断をしていくべき問題で、市の考えを聞き、市議会でよく検討していかなければならないと、視察を行って新たに感じた。

- ② 赤磐市には埋蔵文化財が多くあると聞いていて、今までも多く発掘され倉庫に眠っているものがある。そういった文化財を市民や多くの方に見ていただくことができていない現状があり、葛城市歴史博物館を視察させていただいた。

奈良県は都があった地であったため文化財が多くある地であり、そういったものをどのように保存されているのか、博物館はどういった経緯で整備されたのか、運営していくのにはどういった課題があるのか座学でご教授いただいた。赤磐市も新拠点整備を行っている最中、埋蔵文化財の発掘調査を行い発掘された埋蔵物をどのように保存するのか、多くの課題を抱えている。現在、赤磐市には郷土資料館が2施設あるが、ともに旧町時代にできたもので施設としては老朽化している。市議会でも郷土資料館に代わる新たな施設が必要ではないかとの意見もあり、今後検討していくべきものと考えている。その時のために必要な一つの方法として今回の視察を行った。